

# 子どもが心配チェックシートの有用性と個別支援における課題

岩本 真弓・東野 定律

The usefulness of check sheets to care for children  
and agendas in individual supporting

Mayumi IWAMOTO, Sadanori HIGASHINO

『経営と情報』

静岡県立大学・経営情報学部／研究紀要 抜刷

第30巻 第2号 (2018年3月)

## 子どもが心配チェックシートの有用性と 個別支援における課題

岩本真弓（静岡県立大学看護学部）

東野定律（静岡県立大学経営情報学部）

本研究の目的は、乳幼児健診にて「子どもが心配チェックシート」（以下、チェックシート）を使うことにより得られた成果及び乳幼児健診後の個別支援の際に必要なと考えられる新たな項目について明らかにし、親の養育力向上のための支援に必要なアセスメント内容を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。対象は、乳幼児健診においてチェックシートを活用している3名とし、個別に半構造化インタビューを実施した。

チェックシートを乳幼児健診の場で使い始めた成果は、親に関することとして、【家族内の子どもの養育力の捉え方の共有】、【養育力向上の動機づけ】、支援に関することとして、【養育力を横断的に把握】、【親の潜在的な悩みや虐待の把握】、【親の養育力の傾向に着目した事業計画】の5項目を抽出することができた。一方、【親の問題認識の程度】【養育力に対する自己評価の具体的理由】などが、親の養育力向上の個別支援に必要な新たな項目ではないかと考えられた。

キーワード：養育力、個別支援、乳幼児健診

### 1. 研究背景と目的

近年、母親の育児を巡る環境は著しく変化している。核家族化の進展、地域社会のサポート機能の低下等に伴い、母親の孤立感や負担感が高まっている。子どもの健全な育成のためには、子育て環境の確保が大切であることは、多くの研究で明らかにされている<sup>1)~3)</sup>。

「健やか親子21（第2次）」においても、「全ての子どもが健やかに育つ社会」の実現に向け、重点課題の1つとして「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」に取り組むとしている<sup>3)</sup>。

また、子どもが自分らしく、豊かに成長発達するためには、子どもの育ちに必要なニーズについて親がどの程度満たすことができているか（以下、親の養育力という）について客観的に明らかにする必要がある。

乳幼児健診は従来の“発達の遅延や疾病の早期発見・早期対応”から、その機能を“子どもの心身の健やかな発達の促進”“育児支援”に拡大してきている<sup>4)</sup>。

保健師は、妊娠期から母子に関わり、その後、家庭訪問や乳幼児健診において切れ目のない支援を行う役割がある。1歳6ヶ月健診、3歳児健診の受診率は全国的に90%を超えており、育児支援に必要な親の養育力のアセスメント及び早期支援の重要な場となっている<sup>5)</sup>。

しかし、ほとんどの自治体が1歳6ヶ月児・3歳児健診を集団健診方式で行っているため、時間的制約の中での確に個別支援のニーズを発見し、早期に対応することに苦労している現状がある<sup>6)</sup>。さらに、通常目に見えにくい親の養育力を把握することには困難が伴う。

そこで、乳幼児健診の場において、親の養育力を評価し、乳幼児健診後の個別支援で活用可能なアセスメント内容について検討する必要があると考える。

子どもの育ち（発達）にとって何が重要かということを考えるためには、子どもと親やその家族の状態像を捉えることが求められる。

「子どもが心配」チェックシートは、子どもの家族を含め、支援に携わるすべての人が使えるこ

とを目的にしたアセスメントツールの1つであり、子どもの養育のどの側面が心配なのかを客観的、多角的に明らかにすることができる<sup>7)</sup>。親の養育力を、親を中心としてではなく子どもの最善の利益が確保されているかという観点から判断する目安とすることができる。そして、子どもが置かれている状況だけでなく今後の支援の目標を親と一緒に設定することも可能とする<sup>7)</sup>。

チェックシートは、イギリスで使用されていたツール『The Graded Care Profile (GCP) Scale～A qualitative scale for measure of care of children～』(以下、「GCP」という。)の指標をベースにしながらも、日本の風土や生活習慣に適合させたツール『Okayama Prefecture's very own version of "The Graded Care Profile (GCP) Scale"』を著作者の許可を得て作成されたものである<sup>8)~9)</sup>。

本研究では、乳幼児健診において親の養育力向上への支援を行うためチェックシートを導入しているA町での活用状況を調査し、乳幼児健診において使うことにより得られた効果及び乳幼児健診後の個別支援の際に必要な新たな項目について明らかにし、親の養育力向上のための個別支援に必要なアセスメント内容を検討する基礎資料を得ることを目的とする。

## 2. 用語の定義

【親の養育力】子どもが自分らしく、豊かに成長・発達するために必要不可欠である子どもの育ちのニーズを、親がどの程度みとることができるかということ。

## 3. 研究方法

乳幼児健診においてチェックシートを活用している自治体へ、活用実態および親の養育力の把握に関する困惑感、チェックシートを活用して役立つと思えたこと等について半構成的面接調査を実施した。

### 1) 調査対象者

乳幼児健診においてチェックシートを活用している自治体1箇所の職員3名(保健師2名、精神保健福祉士1名)とした。

### 2) 調査方法

(1) 個別の半構成的面接調査を実施した。(平成27年3月)

(2) 調査項目

- ①保健師、精神保健福祉士経験年数と母子保健活動に従事してきた期間
- ②チェックシート活用のねらいときっかけおよびその具体的な活用方法
- ③親に子どもへの関わりや環境づくりといった支援をした際に使いにくいと思う点、もっと工夫した方が良いと思う点
- ④チェックシートを活用して支援に役立つと思えたこと

### 3) 分析方法

録音した内容を逐語録におこし、親の養育力の把握に関する困惑感(困惑感)、チェックシートを活用して役立つと思えたこと(成果)の問いに対して語られた内容を、意味内容が理解できるよう短文に要約した。そして、同質性からカテゴリーを抽出した。

### <倫理的配慮>

文書と口頭により研究の趣旨と途中棄権も可能であることを説明し、録音と逐語録を起こすことの同意を得、研究参加の了解を得た。面接調査は、研究協力者の希望を考慮し、日程、場所を決め研究者が実施した。以上の点を踏まえ、静岡県立大学看護学部倫理審査委員会の承認を受けた。

## 4. 研究結果

2名の保健師は、母子保健活動の経験年数が28年以上であった。1名の社会福祉士は、児童福祉業務を担当した経験年数が5年であり、保健師と連携して母子保健活動に従事していた。語りの要約を「」で示し、カテゴリーを【】で示す。( )は文脈から推測できる言葉を補った。

### 1) 乳幼児健診で親の養育力をアセスメントするためのチェックシート活用方法

A 町では、乳幼児健診において、親の養育力向上への支援を行うため、平成26年度からチェックシートを導入している。チェックシートは乳幼児健診の間診票と合わせて事前に郵送し、自宅で記入したチェックシートを当日会場に持参する。乳幼児健診は集団方式をとっており、当日は、最初の間診でチェックシートの記入もれを確認し、身体計測や診察などを経て最後の個別指導の参考として活用している。

### 2) チェックシートを乳幼児健診で使い始めた成果(表1、表2)

チェックシートを健診の場で使い始めた成果は、親に関することとして(表1)、【家族内の子どもの養育力の捉え方の共有】、【養育力向上の動機づけ】、支援に関することとして(表2)、【養育力を横断的に把握】、【親の潜在的な悩みや虐待の把握】、【親の養育力の傾向に着目した事業計画】の5項目を抽出することができた。

#### ①親に関すること(表1)

【家族内の子どもの養育力の捉え方の共有】では、「(普段子どもへの関わりが少ない)父親と養育力について一緒に考えることができた」といった夫婦や家族で子どもの養育力について話し合うことを実践していた。【養育力向上の動機づけ】では、「子どもに必要な親の関わりができていなかったことに、親が気づく」「基本的生活の領域で親が今まで知らなかった「食育」について、理解することができた」といった、親の子育てに必要な養育力に対する気づき(教育的効果)があった。

#### ②支援に関すること(表2)

【養育力を横断的に把握】では、「前回と今回の養育力の自己評価を比較し、変化した子どもの養育状況を聞くことができるため支援に役立つ」「養育力評価の結果から、「清潔」の状態が気になる親に、(清潔を保つ習慣)について(具体的に養育状況を)聞いて確認することができる」ことから、親の養育力を前回健診時と比較し変化を捉えた支援を行っている。【親の潜在的な悩みや虐

待の把握】では、「養育力の自己評価結果から今まで支援者が知らなかった親の悩みの把握につながった」「養育力の自己評価から、虐待の早期発見に繋がる場合もあると感じている」ことが明らかとなった。【親の養育力の傾向に着目した事業計画】では、「行政の母子保健事業を担当して、今まで把握できなかった親の養育力の傾向を顕在化させ、事業化に取り組むことができる」ことが、今後の実践への期待として示された。

### 3) 個別支援において、親の養育力の把握に関する困惑感(表3)

個別支援において、親の養育力把握に関する困惑感について、【親の問題認識の程度】【精神疾患を有する親の真の養育】【養育力に対する自己評価の具体的理由】【養育力の評価結果に対する今後の希望】の4項目を抽出できた。

【親の問題認識の程度】では、「母の問題意識がない」「子どもの発達状況を理解していない」などの場合に支援が困難になっていた。【精神疾患を有する親の真の養育】では、「精神疾患、母子家庭、生活保護という状態が重なることで(生活が困難となり、養育状況が見えない時に)養育力の把握が困難」な状況になっていた。【養育力に対する自己評価の具体的理由】では、養育力が(低い)という問題なのか親の自己評価が厳しいからなのか自己評価の結果について、理由を確認する必要性を感じていた。

表1 チックシートを健診で使い始めた成果（親に関すること）

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	要約
家族内の子どもの養育力の捉え方の共有	夫婦や家族で子どもの養育力について話し合い	子どもに必要な養育力について家族で話し合うことができる。	家族で、子どもに必要な養育力の自己評価を考えることができた。
		子どもの養育力について、夫婦で考えることができる。	（普段子どもへの関わりが少ない）父親と、養育力について一緒に考えることができた。
養育力向上の動機づけ	親の子育てに必要な養育力に対する気づき （教育的効果）		子どもに必要な関わりができていなかったことに、親が気づく。
			養育力を自己評価することで、母の漠然とした子育ての困り感を浮き彫りにすることができた。
		子どもの育ちに必要な親の関わり気づく。	子育てに必要な親の関わりについて、母が気づくことができた。
			子どもへの関わりを振り返り、（育ちのニーズを満たす）養育について、親が認識することができた。
			親が自分の養育力を確認する機会として役立つ。
		「基本的生活」領域の養育力について親が認識する。	基本的生活の領域で、「掃除は行き届いていますか」という内容の質問があり、子どもが生まれる前からしていたことではあるが、子どもの育ちに必要な養育力として母が認識できた。
		親が今まで知らなかった「食育」について理解できた。	基本的生活の領域で、親が、今まで知らなかった「食育」について理解することができた。
親の養育力のフィードバックによる、動機づけ		子どもの様子だけ思っていたことが、虐待に値することであったと母が気づいた。	大人の目線では様子だけ思っていたことが、子どもに必要な働きかけになっておらず、虐待に値することであったと母が気づいた。
		養育力の自己評価結果から、母の育児の良いところを伝えることで、子どもへの関わりを動機づける。	養育力の自己評価結果は、母の育児の軌跡でもあり、母の子育ての良いところをフィードバックすることで、育児を頑張ることができる。
		養育力の強さをフィードバックすることで、母の養育力の形成を促す。	養育力の自己評価から、良い結果を（見出し）フィードバックすることが、母の養育力の形成を促すと感じている。

表2 チックシートを健診で使い始めた成果（支援に関すること）

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	要約
養育力を横断的に把握	親の養育力を前回健診時と比較し、変化を捉えた支援。	親の養育力を前回健診時と比較して、養育状況に合わせた支援を行うことができる。	<p>継続して使用することにより、育児の様子を前回健診時の結果と比較することができるため、支援に役立つのではないかと期待している。</p> <p>前回と今回の養育力の自己評価を比較し、変化した子どもの養育状況を聞くことができるため支援に役立つ。</p>
		親の養育力を継続的に把握することにより、養育力の変化を、支援の目安にすることができる。	親の養育力の自己評価を継続的に把握することで、養育力の変化を見ることができるため、（支援が充実する）。
		子どもの養育状況の確認や、その後の経過を観察できる。	<p>養育力評価の結果から、「清潔」の状態が気になる親に、（清潔を保つ習慣）について（具体的に養育状況を）聞いて確認することができる。</p> <p>養育の自己評価結果が悪い親について、養育力の変化を継続的に確認することができるため支援に役立つ。</p>
親の潜在的な悩みや虐待の把握	虐待の早期把握のきっかけ	虐待の早期発見のきっかけになる。	養育力の自己評価から、虐待の早期発見に繋がる場合もあると感じている。
	子育てに対する潜在的な悩みの把握	親の子育てに対する潜在的な悩みの把握に繋がる。	養育力の自己評価結果から、今まで支援者が知らなかった親の悩みの把握につながった。
親の養育力の傾向に着目した事業計画	親の養育力の傾向を、養育力向上の事業計画に活用。	町内の親の養育力を客観的に把握し、養育力向上のための事業計画に役立てることができる。	<p>行政の母子保健事業を担当して、今まで把握できなかった町内に住む親の養育力の傾向を顕在化させ、事業化に取り組むことができる。</p> <p>（町内の）親の養育力について客観的に把握できる指標が、保健活動に役に立つ。</p>

表3 個別支援において、親の養育力の把握に関する困惑感

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	要約
親の問題認識の程度	子どもの発達に対する母の問題認識の程度	子どもの発達に遅れがあっても、母に問題意識がないと支援が困難。	健診で、言葉の遅れが気になる子どもを、「発達支援教室」に誘うが、母の問題意識がない場合に支援が困難。
		子どもの遅れがわからない母に、「教室」参加の必要性に気づいていただく支援が困難。	子どもの発達の遅れを上の子と比較して大丈夫と言われそれ以上踏み込めない時に困難感を感じる。  子どもの面倒を直接見ておらず、子どもの発達状況を把握していない。
精神疾患を有する親の真の養育力	精神疾患による、親の真の養育力の把握が困難	精神疾患があり、真の養育力が把握できない。	精神疾患があり、真の養育力が把握できない。
		精神疾患、母子家庭、生活保護という状態が重なり、生活が困難になることで養育力が把握できない。	精神疾患、母子家庭、生活保護という状態が重なることで、(生活が困難となり、養育状況が見えない時に)養育力の把握が困難。
養育力に対する自己評価の具体的な理由	養育力に対する親の自己評価の具体的な理由	チェックシートだけでは親の養育力の判断が不十分と感じるので、どういう事実から自己評価したのか確認したい。	チェックシートを活用した養育力の結果は自己評価であるため、「親の考え」を聞いて確認する必要性を感じる。  養育力に対する自己評価について、親の(意見を)聞いて確認する必要性を感じる。
		子どもの養育力が不十分であるという自己評価については、親が判断した理由を確認したい。	「子どもの尊厳」の領域の養育力が不十分であったり、「病院に連れて行っていない」という自己評価についての理由を確認する必要がある。  養育力の自己評価が不十分という回答をした親に判断の理由を聞く必要がある。
		親の養育力の問題なのか、自己評価が厳しいことによる結果なのか判断する必要性を感じる。	養育力が(低い)という問題なのか、親の自己評価が厳しいからなのか、自己評価の結果について理由を確認する必要性を感じる。
		効果の出る支援には、親の養育力に対する自己評価の事実を理解する必要がある。	養育力に対する親の自己評価の理由が理解できないと、個別指導の効果が出ないと感じている。
養育力の評価結果に対する今後の希望	養育力の自己評価結果に対する今後の希望	チェックシートで、日頃の子育てを客観的に振り返り、養育力の自己評価をすることができるが、親の今後の希望は分からない。	チェックシートで、日頃の子育てを客観的に振り返ることができるが、(養育力の自己評価結果に対する)親の今後の希望が分からない。  養育力の自己評価結果に対する、親の考えが分からない。

【養育力の評価結果に対する今後の希望】ではチェックシートで、日頃の子育てを客観的に振り返ることはできるが、(養育力の自己評価結果に対する)親の今後の希望が分からないと感じていた。

## 5. 考察

### 1) チェックシートを乳幼児健診で使い始めた成果

チェックシートを乳幼児健診で使い始めた成果は、①親に関することとして、家庭内で養育力の捉え方を共有できたり、子どもに必要な養育力に対する気づきがあったり、養育力に対する親への教育効果が確認できた。チェックシートは、子どもの状態について親の理解を助け、養育について振り返ることができる<sup>10)</sup>、ことを示す結果となった。そして、乳幼児健診の機会に親の養育力向上のための支援方法としてチェックシートが活用できる可能性を示していると考えられる。

②支援に関することとしては、「(具体的に養育状況を)聞いて確認することができる」「変化した子どもの養育状況を聞くことができる」など、養育力を横断的に把握すること、親の潜在的な悩みや虐待の早期支援の可能性が明らかとなった。子どもの支援に関わる機関は、多くの情報から、家族の子育てに関する力量(養育能力)をアセスメントすることが重要である<sup>8)</sup>と言われている。本研究で示した支援に関する成果は、チェックシートを継続的に活用することにより、親の子どもに対する接し方の変化や、親の変化が子どもの変化にどのように結びついているか、という内容の評価ができることを示していると考ええる。

また、「今まで把握できなかった養育力を顕在化させ」たことで、【親の養育力の傾向に着目した事業計画】につながる可能性が示唆された。

現状把握や評価には経年的な変化や他の地域との比較が必要である。そのためには統一のアセスメントツールを用いて、集積したデータを分析し母子保健活動に役立てる試みとして期待できるのではないかと考える。

### 2) 乳幼児健診における親の養育力の把握に関する困惑感

乳幼児健診における親の養育力の把握に関する困惑感としては、親の問題認識の程度や不十分な養育力を親がどのようにしたいと考えるのかが把握できないという内容であった。現在のチェックシートは、親の養育力がどの程度満たされているかを評価するツールであり、不十分な養育力形成に親が主体的に向かう力があるかどうかについての把握は困難であることが示唆された。

乳幼児健診時における、母親への指導は育児の方法論だけにとどまらず、母親の養育意識つまり育児に対する意識の確認を行うことも重要である<sup>2)</sup>と述べられている。親の養育力向上のための支援にチェックシートを活用するには、親の意識にアプローチするためのアセスメント内容が必要ではないかと考える。

母親の意識と行動の関係も検討し、早期介入の基盤となるアセスメントの視点を明確にする必要があると考える。

### 3) 親の養育力向上のための個別支援に必要なアセスメント項目

乳幼児健診における親の養育力の把握に関する困惑感として抽出された【親の問題認識の程度】【精神疾患を有する親の真の養育力】【養育力に対する自己評価の具体的な理由】【養育力の評価結果に対する今後の希望】が親の養育力向上の個別支援に必要な新たな項目ではないかと考えられ、今後、実際の活用を意図した具体的な内容を明らかにする必要があると考える。

## 6. 本研究の意義と限界及び今後の課題

本研究で明らかにしたチェックシートを乳幼児健診で使い始めた成果は、育児支援に必要な親の養育力のアセスメント及び早期支援の方法の提示につながったと考える。しかし、チェックシートを乳幼児健診の場において活用している自治体が限られており、乳幼児健診でチェックシートを活用する成果には、今後さらに活用された自治体の

知見を統合していく必要がある。

また、乳幼児健診で行う育児支援に必要な親の養育力のアセスメントにチェックシートを活用するためには、不十分な養育力形成に親が主体的に向かう力があるかどうかについて把握する項目が必要であると考えられる。現在のチェックシートは、親の養育力がどの程度満たされているかを「子どもの尊厳（養育者・養育者と子どもの関係）」「愛情」「安全・安心（養育者が一緒のとき子どもだけのとき）」「基本」的生活（食事・住居・衣類・衛生・健康）の領域について得点化し客観的に評価するツール<sup>8)</sup>であることから、親の問題認識の程度や、不十分な養育力を親がどのようにしたいと考えるのかについての把握は困難であることが考えられる。

多様なニーズを持つ子どもとその家族への支援を行う際には、多機関の協働（ネットワーク）による支援が必要であり、子どもの暮らしを支えている関係者が共通に子どもと親やその家族を理解することが求められる<sup>1)</sup>。

チェックシートは、子どもの生活を知っている身近な人たちが使いやすいというメリットがあり、地域で子どもの暮らしを支えている大人たちが、支援の枠組みを共有するとともに、それぞれが担うべき役割を明確化して、子どもと家族と一緒に効果的な支援を作っていくことができる<sup>10)</sup>。

しかし、どのように親を参加させるのかという課題が示唆された。今後は、このような点を改善しより使いやすいものにしていく必要がある。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました保健センターの保健師さんをはじめ職員の皆さまに感謝申し上げます。

## 7. 参考文献

- 1) 山縣然太郎, 保健師に期待する母子保健の課題「健やか親子21」の評価から, 保健師ジャーナル68 (11); 943-947, 2012.
- 2) 関美雪, 谷村雅子, 3歳児の言語発達と母親

- の養育意識・養育行動との関係, 埼玉県立大短大部紀要第2号; 35-43, 2000.
- 3) 勝又明子, 子育て世代包括支援センターの整備に向けた情報提供, 保健師ジャーナル73 (4); 298-302, 2017.
- 4) 桑島昭文, 21世紀のわが国の母子保健行政, 小児保健研究61 (2), 151-156, 2002.
- 5) 水嶋春遡, 地区診断の進め方—根拠に基づく健康政策の基盤, 東京, 医学書院; 54-55, 2000.
- 6) 荒木田美香子, 中野照代, 藤生君江, 片桐雅子, 佐藤友代, 山名れい子, 野崎やよい, 仲村秀子, 飯田澄美子, 幼児健康診査における育児機能評価のためのアセスメントツールの開発, 日本地域看護学会誌5 (2) 51-60, 2003.
- 7) 薬師寺真・三宅尚美・水島真寿美・福知栄子, 「子どもが心配」チェックシート（岡山版）の意義とその活用について, 第16回岡山県保健福祉学会, 2009.
- 8) 岡山県福祉相談センター・岡山県中央児童相談所・岡山県倉敷児童相談所・岡山県津山児童相談所: 岡山県子ども福祉実践研究収録—第1集—, 2011.
- 9) The Graded Care Profile (GCP) Scale-A qualitative scale for measure of care of children-” (Dr.Prakash Srivastava, Richard Fountain, Patrick Ayre and Janice Stewart)
- 10) 青井美帆・薬師寺真・三宅尚美・水島真寿美・福知栄子, 「子どもが心配」チェックシート（岡山版）について—岡山県の取組から—, 全国児童心理司会会報, 2010.
- 11) 渡辺好恵・中板育美・前橋信和・佐藤拓代他, 子ども虐待在宅療養支援ガイド, 地域が中心となった虐待の在宅療養支援に関する研究報告書, 2007.
- 12) 大日向雅美, 育児に伴う母親の不安, 小児看護, 12 (4) 415-420, 1989.
- 13) 弓場紀子, 3歳児健診に訪れた母親の認識の特徴から小児肥満の予防対策を考える, 小児看護, 28 (13), 1828-1833, 2005.

## **The usefulness of check sheets to care for children and agendas in individual supporting**

Mayumi IWAMOTO

Shizuoka Prefectural University Nursing Science dept. assistant professor

Sadanori HIGASHINO

Shizuoka Prefectural University Management Information dept. associate professor

### Abstract:

The purpose of this study is to clarify the results brought by using "check sheets to care for children" (hereafter check sheets) at infant medical checkup, and the subjects considered newly necessary for individual supports after the checkup, and to obtain underlying data for assessments review which is necessary to help parents' improvement in upbringing. The candidates are three parents who use the check sheets at the infant medical checkup, and the semi-structural interview was individually conducted.

The results of the check sheets we start to use at the infant medical checkup are; as concerning parents, "sharing the way of understanding how to bring up children in a family" and "motivation of improved nursing", and as concerning supporters, "understanding nursing ability cross-sectionally", "understanding parents' potential distress and abuse" and "the activities plan focused on the tendency of parents nursing ability", these 5 points have been extracted. On the other hand, the points such as "parents' recognition measure of problems" and "specific reasons of self-assessment for nursing ability" are considered newly necessary to individually help parents improve their nursing ability.

Key words: nursing ability, individual supports, infant medical checkup